

2010年 第6回「川の道フットレース」を走りながら考えたこと「川の道」引退。

No.35 長島 晃 58歳 (5月9日自宅にて)

今年も天候に恵まれた4月30日、葛西臨海公園駅前にはフル520キロ走54名、ハーフ265キロ走16名のつわものどもが集結している。楽しそうで、不安そうだ。

4回目の出場になる私には、さほど緊張も興奮もない。520キロを走る道筋は頭に入っている。調子は良い、すこぶる良い。今年に入って1,148キロ走ってきた。ゴールまでたどり着ける自信はある。今回の参加目的は520キロの心の旅と出会いである。

9時スタート、太平洋荒川河口から日本海信濃川河口へと向かう。左、右と荒川を見ながら河川敷をひたすら上って行く。少し暑いのが気持ちよい。

12時55分、戸田市彩湖畔着。最初のチェックポイント(CP1)だ。少しの休息と給食。調子は悪くない。しかし、CP2新上江橋東を過ぎ、CP3桜堤公園(66.5キロ)から食事が上手く取れない。腹が張っておなかがすかない。CP4の熊谷手前の大芦橋でも食欲がでない。胃薬を飲みながらの走りとなる。昼の暑さと長い距離のランで疲れたのだろう。私だけでなく参加者の多くがおそらく体に変化が来ているはずだ。

日没が過ぎ23時43分、玉淀駅着。ここからの道のりが辛い、寒い、眠い、暗い。だらだらとした登り、大型車が通る、足元が危ない。

途中、コインランドリーで20分ほど仮眠を取る。頭が少しすっきりする。走る気持ちを持ち直し秩父に向かう。

秩父鉄道武州日野駅近くの豆腐屋さんで作りたてのゴマ豆腐と豆乳を飲む。食欲はさしてないが、おなかに入れないと体が持たない。おいしかった。朝一番の食事となる。昨年も頂いた。調子が戻ってきた。

大滝村の新緑が目まぶしい。荒川上流の急流が音を立てている。自然の中に自分が包み込まれる。ループ橋手前の酒やで缶ビールをいっきに飲み干す。気持ちいい。薄めのアルコール度が体を癒す。

三国峠手前のCP9こまどり荘に5月1日12時42分着。舘山実行委員長とそのスタッフ達の暖かい出迎えを受ける。うれしい。給食が用意されている。おいしい手作りカレーのうえに手持ちのスライスにんにくと炒玄米をふりかけ食べる。やっと食欲が出始めた。現在170.2キロ地点。

お風呂と仮眠を取り、16時14分出発。1828メートルの三国峠を登り始める。日没を過ぎても月明かりで山は思ったより明るい。

4時間15分かかり峠に着く。峠にはこの大会を一度は参加してみたいとあこがれている青年？中年？(暗くて寒くてよく解らない)がカメラを用意して待ち構えてくれていた。「私もこの大会に一度は参加したいのですが、でも不安で色々と調べているのです」と話してくれた。案ずるより産むが易し。

三国峠を一気に下り、長い長い川上村に入る。途中、太田さんの私設エイド車の中で仮眠させてもらう。気持ち良い眠りで自分がどこにいるのやらさっぱり判らなくなる。太田さん、ありがとうございました。

市場T字路手前5月2日2時57分。うっすらと残雪を残す八ヶ岳が闇夜の空に浮かぶ。美しい日本の山だ。寒さをこらえ走っていると今度は正面に夜明けの浅間山が見えてくる。浅間山を見ながら佐久、小諸に入り、CP13の小諸グランドキャッスルに到着。半分の264.7キロまで来る。

昨年より足の痛みは少ないが、大きな豆が4つほどできてしまい、針でつぶして治療をする。風

呂と仮眠。信州そばを食べる。うまい。

5月2日16時、キャッスルホテル出発。上田を過ぎ夜に入り、途中から野崎進一さんと合流。ここから二人旅となる。夜の国道にライトを照らしながら長野に向かう。

善光寺5月3日4時10分。浅野交差点8時通過。野崎進一さんは私より四つ年上で、昨年も参加している。昨年の教訓を生かした2度目の参加で、冷静沈着、かんぱり屋で慎重派である。試走会でもお見受けしている。あまり話しかけてこず、もくもくとついてくるタイプ。こころの奥で時間内完走を大きく願っている。そんな野崎進一さんに悪い誘いをしてしまった。飯山に向かう途中340キロ過ぎ地点にある奥信濃の雄峰に抱かれた「もみじ荘温泉」の入浴に一方向的に誘ってしまった。

コースから少し外れた山の中腹にある温泉で、昨年私が入ってとてもよかった。10時開店のところに15分も前に到着。時間のロスと思うか、ちょっと一休みと思うか迷うところだ。それでも何もおっしゃらず一緒にお風呂につかり山間の緑とアルカリ性単純温泉の1時間20分を楽しんでくれた、と思う。そうでなかったら野崎進一さんごめんなさい。ここが一人旅と二人旅の難しいところですよ、ハイ。

飯山駅12時40分着。ここからが私の一番好きな景色が広がるところだ。右手に千曲川、目の前に菜の花畑、遠くには山間の野沢温泉村、絵の中の日本の景色だ。車窓からでは絶対に味わえない。走りながら歩きながら、自分の体で風と光を感じ大きく呼吸をし、毛細血管の先までこの飯山のおいしい酸素を取り入れる。昨年、野崎さんはここを真夜中に通過したそうだ。今年は明るい時間でよかったですね。幸せな気分もつかの間、これを過ぎると新潟県との県境まで30キロの上り下りに入る。CP19津南町「深雪会館」まで8時間かかる。なんといいのか、私には消しゴムで消したい道のりの時間だ。幸い今年は野崎さんと一緒なので、心の励ましあいで支えられた。

足首が象の足のように腫れ、足裏の皮が2枚ほどはがれた感じ。森宮野原駅384キロ地点付近のコンビニの駐車場で腰を下ろして休んでいたら寒さと睡魔でそのまま後ろに倒れそうになり、慌てて気を取り直し歩き始めた。「野崎さんガム下さい、ぴりぴりする眠気取れるあれを」と声を荒げてお願いする次第。本当にそのまま倒れるのではないかと思った。

5月3日21時54分深雪会館着。この道のりまでに「川の道」の引退の文章は、頭の中で出来上がっていた。会館のお風呂に入ると携帯のメール発信音がしきりに聞こえる。はっきりと「メールが来ています、メールが来ています。あなたの銀行口座には残金がありません。今すぐに現金をお振込みください。メールが来ています・・・」と延々とメッセージがお風呂の中で続く。幻聴だとは思うのだが、かなりはっきり聞こえる。脱衣場に移ると音が浴室から聞こえる。ガラス戸を開けたり閉めたりして音の発信地を確かめてみるが、やはり4畳半ぐらいの浴室から聞こえてくる。走りすぎて脳みそのしわがなくなり、つるつるになってしまった。もしくは血液がサラサラになりすぎて抵抗感なく、全身の血管にサラサラ血液が猛スピードでめぐりめぐっているのだ。とにかく正常なスタッフにそのことを告げ、芯から震える体を暖かい布団の中にしまいこみ、一刻も早く深く眠りにつくことにした。

5月4日5時15分、津南「深雪会館」出発。今日も晴れ。体調良好。象の足首、2枚はがれた気がする足裏、8箇所及ぶ足のまめなどなぜか全然気にならない。そして痛みがない。

スタートして30分ほどで便意をもよおし、久しぶりの野糞。まるで野生動物のようだ。かがみながら見上げた空が青く透き通っている。生きているのだと感じる。心地よく落ち着く。

ランナーズ・ハイ。どこまでも走って行きたい、いつまでも走り続けていきたい。時間なんかどうでもいい。成功も失敗もどうでもいい。何かに引き寄せられるように進んでいく感じ。陶酔感の中で脳内分泌βエンドルフィンが体の中を駆け巡る。津南から私設エイドの小千谷の和田さんまでの45キロ間で強く感じる。20年走っていて生まれて初めての経験だった。

和田さんの家で45分休ませて頂き、ビールもご馳走して頂いた。出発の時、和田さんのお見送りの笑顔が私の「川の道」引退の二文字揺るがす。私の尊敬する、そして大好きな演劇界のプロデューサー、トム・プロジェクトの岡田潔さんに笑顔がそっくり。岡田さん名前を拝借してごめんなさい。

ビールを頂いたのでランナーズ・ハイのリズムが変わると思っていた。しかし、ここからまたもやランナーズ・ハイ・ハイとなってしまった。長く一緒に走ってきた野崎さんとは和田さんの家を出てから越の大橋で別れることとなる。

長岡市内に入る手前でNo.108の大阪出身、「妻にごめんねメール」の大場良一さんと40分ほど併走することとなる。至福のランのひと時。大場さんは第4回ハーフの部270キロ優勝者である。楽しく、愉快で正直な大阪人51歳。

CP22 長岡大手交差点、15時45分着。長岡市内の少し外れのコース沿い、左側のナイトスポット卑弥呼まで一緒に走り、私はそこから単独走でハイ・ハイと進む。疲れない、痛みがない。どこまでも、どこまでも、どこまでも走れる。本当に体がどうかなってしまったのだろうか。CP23 三条大橋までそれが続いたが、19時38分でβエンドルフィンもここまで。人生のすべてのβを使い果たしてしまった。この大会が終わったらまた貯めよう。

493キロ地点、白根ららぽーとドライブイン（地元の暇な不良青年たちがたむろするようなゲーセンアンド自販定食屋）。昨年も立ち寄り、リーゼントが少し崩れかけたあんちゃんマスターにお世話になった。今年もいた。しかし、リーゼントではなくやさしい話好きの兄ちゃんに変身していた。おまけに陸上自衛隊を1年で辞め、地元に戻りパチンコ生活をしている将来に何の不安もなさそうな若者と、タバコを口から離せない陸自のマブダチ2人が加わり、1時間おしゃべりをしてしまった。至福の時間だ。このまま話をしているとホンマ健康ランドがどんどん遠くなってゆく。

「そろそろ行きます」。若者2人が少し淋しそうに「もう行っちゃうの」なんてね。マスターからペットボトル2本の差し入れをしてもらおう。ありがとう。元リーゼントのマスター、「来年も来てね、待っているよ」。引退の二文字が薄れる。

5月5日4時、CP25 信濃川河口516.3キロ地点。薄明るい日本海に到着。釣り人が一人。ほかには誰もいない。感慨がない、涙がこみ上げてこない、胸に熱いものが感じられない、家族の顔が出てこない。喜びはどこに行ってしまったのだろうか。少し疲れた。引退の文字がはっきり浮き上がる。

GOALのホンマ健康ランド。520キロ完走。5月5日4時39分、空は明るい。スタッフたちが出迎えてくれる。拍手。館山実行委員長と力強い握手。漫画、おそ松くんのイヤミのシェーポーズで記念のゴール写真。

115時間39分31秒。昨年より6時間50分早い11位でのゴールとなる。